

電子書籍版

文献資料集成

〈学校から仕事への移行〉の形成

—日本の制度・実践・メディア—

第Ⅱ期 学校職業指導成立期の諸相編 全4巻

解題・監修 ◆ 木村 元 (青山学院大学特任教授、一橋大学名誉教授) 解題 ◆ 丸山 剛史 (宇都宮大学教授)

紙書籍 121,000円 (本体 110,000円+税) ISBN 978-4-86670-104-2 分売不可



電子書籍

同時アクセス1

同時アクセス3

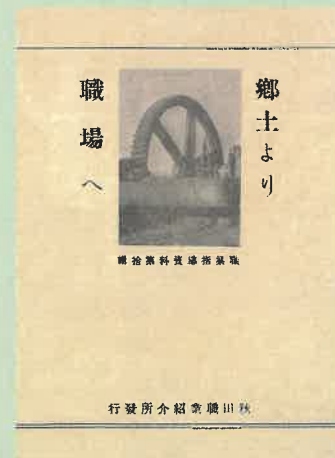
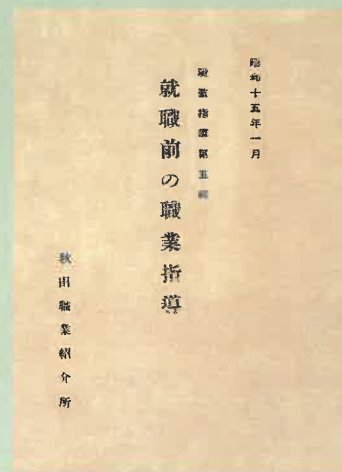
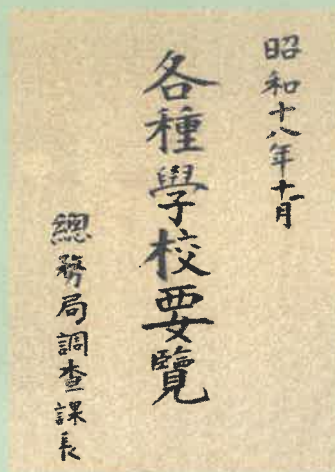
133,100円 (本体 121,000円+税)

242,000円 (本体 220,000円+税)

学校と社会 (仕事) へのつながりが転換点にある、いま、学ぶべき資料

近代日本において学校から仕事への移行がどのように整備されていくか、国家の制度的な枠組みの形成過程と、それをモデル化して提示した学校の動きを捉える資料とともに、そうした制度的な動向とは異なる社会の変動に対して独自に対応した学校の営みを含めて、諸資料を配した。

(第Ⅱ期 導入解説より)



クレス出版

文献資料集成 〈学校から仕事への移行〉の形成 第Ⅱ期

監修・解題 ◆ 木村 元

解題 ◆ 丸山 剛史

◆各巻収録一覧◆

導入解説

第1巻 文部省外郭団体の職業指導 - 大日本職業指導協会から職業指導協会へ

「職業指導の沿革と其の意義」

水野常吉・大日本職業指導協会 (富山房、1928年)

「職業指導読本」

文部省構内大日本職業指導協会 (富山房、1928年、収録は訂正四一版、1933年発行)

「新制中学校と職業指導」

日本職業指導協会 (日本職業指導協会、1948年)

第1巻 [解題]

第2巻 戦前の学校職業指導実践

「我が校に於ける職業指導の実際と施設案」

赤坂高等小学校 (1928年)

「小学校に於ける職業指導の実際」

下川兵次郎 (三省堂、1931年)

「本校の職業指導」

金沢市小將町高等小学校編 (金沢市小將町高等小学校、1935年)

「個性調査法」

金沢市小將町高等小学校編 (金沢市小將町高等小学校、1932年)

「小將町高等小学校三代記」

金沢市立小將町中学校編 (金沢市立小將町中学校、1983年)

第2巻 [解題]

第3巻 重工業社会の到来と職業指導実践の模索

「学校方式の時代 - 1920~40年代の青少年労働を巡る転換の諸相」

木村元・高瀬雅弘・富澤知佳子 (『一橋大学研究年報 社会学研究』第四四巻、2006年)

「就職前の職業指導」

秋田職業紹介所編 (秋田職業紹介所、1940年)

「郷土より職場へ」

秋田職業紹介所編 (秋田職業紹介所、1940年)

「技術教育と職業実習」

日本技術教育協会編 (扶桑閣、1932年)

「普通学科」巻一

関口八重吉監修・日本技術教育協会編 (日本技術教育協会、1940年)

「仕上」(三)

関口八重吉監修・日本技術教育協会編 (技能者養成出版社、1942年)

第3巻 [解題]

第4巻 各種学校の動静 - 文部省・東京府 (都)

「各種学校一覧 昭和一〇年六月現在」

東京府学務部学務課編 (東京府学務部学務課、1935年)

「各種学校一覧 昭和一六年八月現在」

東京府学務部学務課編 (東京府学務部学務課、1941年)

「各種学校一覧 昭和二三年一〇月三十一日現在」

東京都教育局 (東京都教育局、1948年)

「各種学校要覧 (昭和一八年一一月)」

文部省総務局調査課 (文部省、1943年)

第4巻 [解題]

◎続刊予定◎

●第Ⅲ期 テキストとメディア 2024年予定

◇刊行済◇ 文献資料集成 〈学校から仕事への移行〉の形成 第Ⅰ期 - 制度・政策関係編 全5巻

監修・解題 ◆ 木村 元 解題 ◆ 丸山 剛史

定価 121,000円 (本体110,000円+税) ISBN 978-4-86670-102-8 分売不可

〈学校から仕事への移行〉の母体ともいえる日本の学校の制度的基盤や性格を押さえる基本資料を収録。

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
TEL (03)3808-1821 FAX (03)3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

●書店名

KRESS 株式会社クレス出版

2024.02

現代は、学校から仕事への移行関係が過渡段階にあり、模索の時期にあるといえるのではないか。学校を出て仕事に就くという、これまで当たり前のように学校と企業社会がつながっていた時代が大きく動揺している。これからの学校と仕事との関係を考える上でもあらためて両者の関係がどのように作り上げられてきたかを遡りその性格を押さえることで、現在の学校から仕事への歴史的な位置を確認することが求められている。

日本においての学校から社会への移行関係は、両大戦間を経て戦後本格的に拡大され、一九七〇年初頭には確立する日本型企業社会においてつくりあげられる。そのなかで学校は、一方的に社会の要求に対応するだけではなく、独自に対応の論理をつくりあげていったことよって、固有な接続関係が生み出されたといえよう。

本資料集成は、この間の学校の制度的基盤や性格を押さえながら日本の「学校から仕事への移行」の形成がどのようになされていたのかを探ろうとするものである。

本資料集成は三部から構成されている。第Ⅰ期（配本）では「学校から仕事への移行」の母体ともいえる日本の学校の制度的基盤や性格を押さえる基本資料を取録した。学校と社会との関係や「学校から仕事への移行」という課題がどのように埋め込まれているかを改めて確認するものである。補巻には戦後の学校と社会の接続の形成に関する審議会関係資料も含めた。

第Ⅱ期においては、「学校から仕事への移行」をどのように索引しようとしたかを示す資料を取録した。制度を支えた外郭団体、具体的なモデルを提示した学校や実践の動向、さらには社会の変動に對して独自に対応した教育の営みがわかる一連の資料を配した。

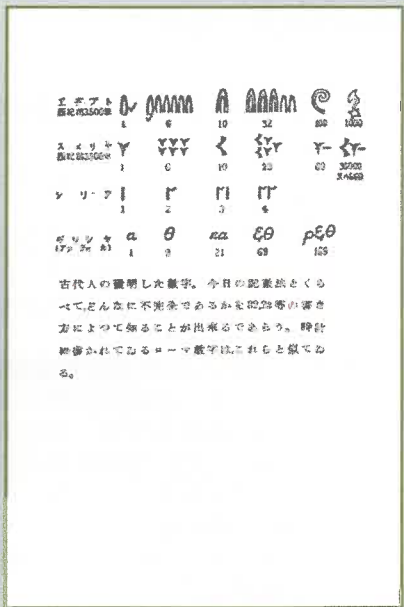
第Ⅲ期は、各期の教科書ならびに学校から仕事に関する重要な諸雑誌を取録した。教科書は何を教えるかという意図を集約したものであるが、実際にはその意図通り学び手に伝わるわけではない。どのように意図が実現されたかについての情報を得るには、その実践を紹介した諸媒体である関連雑誌を探ることが有用である。本資料集成では、一般的に入手しにくいテキストと学校から仕事への情報を扱っている重要な諸雑誌とを取録するとともに、幅広く関連雑誌の情報をリスト化して掲げた。

情報化の進展によって関連資料の入手が比較的容易になってきているとはいえ、学校から仕事への移行の実態と意味を考えるための資料は未発掘なものも含めて少なくない。本資料集成では、入手が難しいものだけでなく、今まで注目されることがなかったものも収録した。さらに、基本的に比較的知られていないものでも新しい位置づけを与えた。また、収録資料以外に、全体を眺望し、研究を進めていけるように関連雑誌の紹介もおこなった。加えて、これまで内容が共有されてこなかった重要な雑誌の目次リストを掲載するなど、今後の研究に資するように工夫を施した。

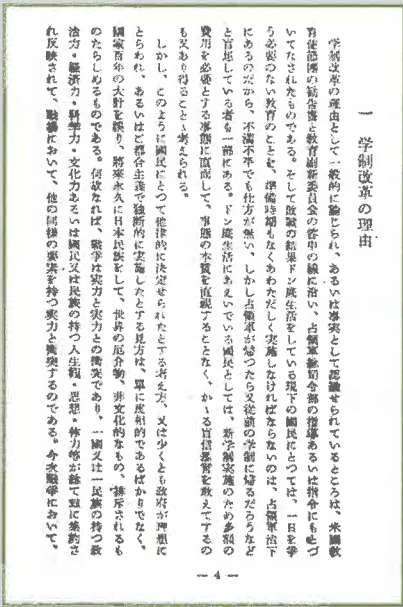
本書の特色

- 第1巻 具体的な実践形式を提示し学校職業指導の定着に大きな役割を果たした大日本職業協会から、形成過程をうかがえる3点を採り上げる。
- 第2巻 学校職業指導の先駆けとして赤坂高等小学校、東京市の教育刷新を現場から指導した下谷高等小学校、地方での普及過程を知る上で小將町高等小学校を掲げる。
- 第3巻 政策モデルとは異なる職業指導に着目。徒弟方式と異なる学校方式が取り入れられる過程、重工業化進展により学校職業実践の枠組が拡大した例として秋田職業紹介所から2点、日本技術教育連盟から3点を採り上げる。
- 第4巻 学校方式の人間形成が拡大するなか、大きな比重を占めるようになった、初等後の教育機関と職業社会を媒介する各種学校の動向を掲げる。

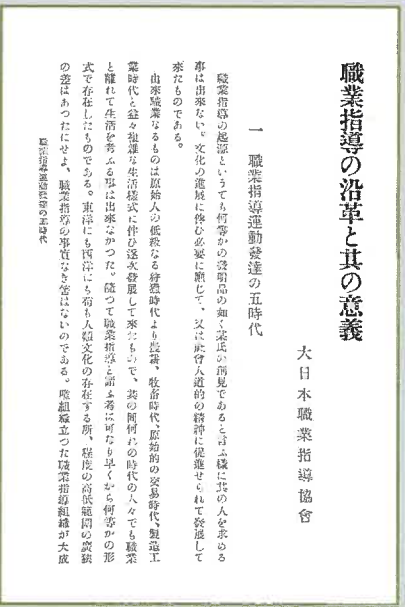
内容見本



■第3巻『普通学科』より



■第1巻『新制中学校と職業指導』より



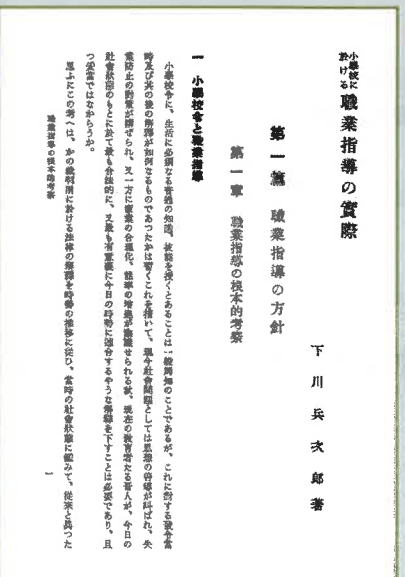
■第2巻『本校の職業指導』より



■第4巻『各種学校要覧』より



■第2巻『小学校に於ける職業指導の実際』より



■第2巻『職業指導の実際』より